

# 抄録記載例

①  

## 課題解決型学習における情報検索指導

②  

野村美智子<sup>1)</sup>、小林晴子<sup>1)</sup>、坪内政良<sup>1)</sup>、安藤裕明<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 愛知医科大学医学情報センター（図書館）

<sup>2)</sup> 愛知医科大学医学情報学

③・④

⑤

愛知医科大学には医学部と看護学部があり、情報科目の履修が医学部は1年間の選択科目、看護学部は前期の必修科目として行われている【共に1学年次・必修形式】。教育目的はコンピュータを活用する基礎的な能力を身につけることを第一とし、更に医療分野における応用性を学ぶことである。この履修に平成12年度から図書館員による情報検索指導のコマが設けられ、今年度で3年目を迎える。

**【課題解決型学習と図書館】**

授業では、まず基本的リテラシー教育が10回ほど行われる。その際医療分野での応用性が指導される。学生はこの時期から4～8名のグループに分かれ、約1ヶ月をかけて薬物、疾患名、治療法等に関連したテーマを選択して調査を行い、結果をプレゼンテーション発表する【表1】。発表当日には図書館員も参加し、いくつかの観点から評価を下す。プレゼンテーションで必要となる調査内容は、①概要②資料に報告された論文名とその内容【書籍事項】③最近の論文名とその内容【書籍事項】④関係目的、商売、作用・副作用などの4項目である。これらの課題を解決するために試行錯誤するのが「課題解決型学習」であり、解決手段の一つとして図書館員が情報検索の考え方やその方法を指導する。

**【図書館員による履修内容】**

【1】図書館利用・OPAC検索実習、マルチメディア資料紹介、館内ツアーなど【1コマ】。  
 【2】PubMedと医中誌を中心としたデータベース検索実習【2コマ】。最近の話題や医薬品を例にプレゼンテーションで役立ちそうな機能も紹介。  
 【3】毎回課題を出題して履修後に年内メールで回答させる。定期試験にも出題。

**【結果と課題】**

プレゼンテーション評価を通じ、学生の表現技術に感心させられる一方、「検索」「評価」「選択」の部分で情報検索指導がどの程度成果をあげているのか疑問を抱く。今年度の担当にあたって、前年度までの反省をもとにどのような履修を行うのか、具体的な検討が必要である。

表 1. 医学部情報学カリキュラム

回数	内 容
第1回	コンピュータネットワークの基礎的リテラシー教育
1回	プレゼンテーションソフトの基本的な使用法 およびテーマの決定(4～7名のグループ)
1回	国内外の専門情報電子資料の活用法-検索法
1回	図書館の活用法、図書館実習(OPACほか)
1～2回	専門分野データベースの検索法 [PubMed、CNKI、医学中央雑誌]
1回	プレゼンテーションのまとめ方、 コンピュータを用いた専門情報調査法
第7回	発表者の基礎(図書館員による指導) 発表準備、プレゼンテーション評価 [グループワーク評価も活用]
1回	プレゼンテーション演習(スライド、学生による評価)

⑥

■ 形 式：テキスト形式または Microsoft Word 形式

■ レイアウト：縦 40 行×横 40 文字、横書き、A4 判 1 枚

- ① 上下余白は 3 センチ前後
- ② 左右余白は 2.5 センチ前後
- ③ 標題は横倍角処理か 18 ポイント。明朝体（細明朝）かゴシック体。
- ④ 標題、著者名（発表者を筆頭に）、所属機関名の順で記載し、センタリングする。標題の上下は 1 行ずつ空ける。所属機関名の下も 1 行空ける。
- ⑤ 本文は 10.5 ポイント。明朝体（細明朝）。
- ⑥ 範囲内であれば、図表や参考文献を記載してもよい。